

基調報告と
発言の旨

10・9 三里塚現地闘争は、全国から八四〇〇名が参加して大成功をかちとり、今秋から来春へむけた二期阻止決戦の突破口をきりひらきました。
集会での北原事務局長の基調報告と、勤労千葉中野・関川新旧委員長の決意表明を紹介します。

3・25 全国総決起集会の成功に
むけてばく進する

基調報告 北原事務局長

中曽根の二期早期着工宣言をうけて、空港公団総裁秋富は、あらゆる手段で現地の人との話し合いをもちたい、と一五〇億円の予算を手中に二期攻撃を全面化してきている。13年の歳月の中で収用法はもはや効力を失い、一本釣りによる同盟切り崩ししか手が残されていない敵は、8月パイプライン供用開始の事態で追い込まれ焦っている。われわれは代償を求めて闘ってきたのではない。農地死守、空港絶対反対を貫く。二期用地内に最近また二つ団結小屋を建設した。敵は今、三月に同盟から脱落していった部分を取りこみ懐柔策の成田用水に全力をあげている。左手でもらうべきものをもらって右手で空港反対などとベテンをろうする脱落派や用水派を絶対に許さない。大韓航空機撃墜、核空母カーペンソン佐世保寄港、中曽根の軍事大国化攻撃の大エスカレーションの中で、ついに日米合同演習に参加する米軍五百名の部隊が三里塚空港を使用するという事態がおきている。関西新空港ともども、この巨大軍事空港を粉碎しなければならぬ。戦争体制づくりの、行革、攻撃と実力対決に決起している勤労千葉や闘う国労の仲間を先頭とした労働者の決起は決定的に重要だ。闘う人民をデマや暴力で背後から襲撃する革マルは全人民の敵だ。全職場・地域で一掃しよう。成田市議会が私に、辞職勧告などを出したが、こんなもの踏みつぶして反対同盟は今秋から来春への決戦を闘い、来年二月芝山町議選に候補を立てて闘い、3・25全国総決起集会の成功にむけバク進する。

三里塚闘争の勝利が日本の
労働者人民の未来にかかわる

中野委員長のあいさつ

今日のまさしく戦後を画する激動の時代の中で、勤労千葉は三里塚と国鉄をめぐる反動中曽根と断固対決して闘う方針を決定しました。中曽根の攻撃が三里塚闘争の抹殺、反対同盟の解体、二期強行、さらには日本の労働運動の中心である国鉄労働運動解体に照準を合わせてかけてきているとき、私達はこの二つの要衝で彼等をむかえうち、これを粉碎す

る闘いに決起することです。今や国鉄当局、臨調の明確な尖兵となって、わが勤労千葉や国労に結集し闘う労働者に対して背後から襲いかかる状況の中で、十八年間の三里塚闘争を勝利させ、これとあらゆる戦線の闘いを結合させ、階級情勢の高揚、転換をつくり出さない限り闘いは一歩も前進しません。われわれは、8・8パイプライン供用開始という事態の中で、燃料輸送それ自体は終了しましたが、三里塚闘争を支えてきた一つの柱として、反対同盟と共に今後も車の両輪として三里塚闘争の勝利のために、そのことが日本の労働者人民の未来にかかわることだ、という立場から今後、も闘いつづける決意だということを明らかにしてあいさつとします。

三里塚闘争の教訓を生かして
最後まで闘う

関川前委員長あいさつ

去る十月五日、六日の第8回勤労千葉定期大会におきまして、組合の基本原則に従って委員長を退任いたしました。あとは、書記長でありました中野洋君を全員一致で新しい委員長に選び、そして強力な中野執行体制を確立いたしました。私は今後、勤労千葉顧問として、今日までの労働運動、三里塚闘争の中で学んだ教訓を生かして、全国の住民団体そして労働者の皆さん方と共に最後まで闘いぬいてゆく決意を明らかにしたいと思います。今後の勤労千葉の進むべき方針、決意等につきましては、新委員長の中野洋君の方にバトンタッチをいたしますので、これまで以上のご支援・共闘をお願いいたします。私からのご報告とごあいさつといたします。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!